

受動部品事業について

専務執行役員
植村 博之

●重点3分野（車載、ICT*、産機）への販売拡大に注力

*ICT：情報通信技術

◆セラミックコンデンサ

- －引続き車載向け製品の強化による更なる収益改善
- －応用製品（用途特化型製品）の販売拡大

◆インダクティブデバイス

- －パワーコイルのフルラインアップ化（薄膜/巻線/積層）による顧客要求への柔軟な対応
- －車載向け積層製品の強化
- －高周波コイルの製品ラインナップ拡充

◆圧電材料部品（VCM、OIS）

- －VCM低画素帯製品の競争激化⇒中国系メーカー台頭
- －VCM高画素帯製品の拡販強化、高特性品（高応答特性）による差別化
- －OIS搭載率の見極めと柔軟な生産対応、部品内製強化によるコスト改善

●重点3分野（車載、ICT*、産機）への販売拡大に注力

*ICT：情報通信技術

◆高周波部品

- －大手スマホメーカー向け、中国ローカルスマホ向け調整の影響で
モジュール、単品の販売落ち込み（第3四半期）
- －モジュール製品の承認化活動強化
 - ・ダイバーシティモジュール、FEMiDの早期受注化
- －単品ビジネスのシェア拡大
 - ・温度補正SAWフィルタ、BAWフィルタ
- －ICコラボレーション活動強化
 - ・技術サポート体制を拡充し、リファレンスデザイン活動を徹底強化

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2014/3q_1.htm